


令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立和知中学校 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	中学1年生16名、2年生16名、3年生15名 計47名 保護者・教職員 計26名 総計73名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（PTA親子人権学習） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	タンザニアという異文化の地におけるオリンピック・パラリンピックに参加する人数が少ない国について知るとともに、異なる価値観や文化について理解を深める機会とする。
5 取組内容	令和元年11月16日（土）午前9時40分～11時40分 親子人権学習 アフリカンペイントアーティスト SHOGEN氏による講演 演題「ティンガティンガとの出会いと生きる喜び (タンザニアでの異文化との出会いから)
	 <p>2020年に東京オリンピックをむかえる日本の一員として、海外における異文化の地における生活について理解を深めるとともに、世界におけるいろいろな国からオリンピックに参加する人々の歴史と文化について理解を深める一つの機会とする。</p> <p>なお、タンザニアという国のオリンピックへの出場者は、前回のリオデジャネイロ大会で7人、パラリンピック大会で1人という少ない人数であることを司会の紹介の中で導入した後で、異文化についての学習を進めていった。</p> <p>(実際、タンザニアという国は、スポーツは男性がするものという固定観念がある中で、女性は陸上競技大会への参加が限定されてい</p>

るという状況である。男女格差を示すジェンダー不平等指数では、世界159カ国中129位[2015年]という格差の是正が課題となっている国である。)

<講演内容について>

○タンザニアに行くこととなったきっかけである6色(黒・白・赤・青・黄・緑)から描かれているティンガティンガとの出会いについて

○マサイ族における成人の儀式としてのライオンの尻尾がりの習慣について

○目がいい民族マサイ族における狩猟生活と張り合っていくことができない身体能力の限界の存在に気づいたこと

○現住民族の村に他民族から飛び込んでいく中で、原住民の村に受け入れてもらえるために約束した3つの内容。「スワヒリ語を必ず話せるようになること」、「月単位で住居費用を支払うこと」、「家事・狩猟を手伝うこと」について

○狩猟については、原住民の食生活にそのまま、入り込んだ内容で生活しなければならないこと。そのため、11歳の少年を師匠として狩りをおこなっていたこと。ハリネズミをとらえて食べていたら、認められなくて、発想を変えて海へでかけたらマンタがとれ、3m程のマンタを捕まえたことで、民族から認められたこと

○原住民族の長の奥さんに問われた内容、「あなたは電気がなくなった時にどのように生きていこうとしているのか」という問いかけに真剣に考えさせられたこと

○物語を絵にしようとする原住民の中で木の棒をつかって物語を描く習慣があり、それを元にしていろいろな発想の源としている生活習慣について

例) 流れ星を追いかけて、流れ星を捕まえに大人もでかけていくというあきらめない精神について

<ワークショップ>

『物語を絵にしよう』

夢を追うことは大切なことで、物語を描くことにより、実現に近づけていこうというコンセプトのもと、物語を絵にするワークショップを実施しました。



6 主な成果

日本は、今まで東京オリンピック、札幌オリンピック、長野オリンピックという3回のオリンピックを経験しており、2020年には4回目のオリンピックを迎え入れようとしている国である。また、前回のリオデジャネイロ大会では、オリンピック338人、パラリンピック132人の選手が参加しており、タンザニアの現地における生活について話を聞く中で、オリンピックに参加する国々の文化について、理解を深めることができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>全体的な講演の内容については、タンザニアという国における講演者の異文化での体験をもとにした話が進められていくが、実際には、タンザニアという国におけるオリンピックやパラリンピックへの参加の数はそれほど多いことはなく、それがなぜそのような状況にあるのかについては、今後の生徒の教科学習（社会科地理等）に関心を持って取り組むことができるように、つなげることができるように工夫をしている。</p>
8主な課題等	<p>異文化理解という側面が強いため、オリンピックやパラリンピックについては、事前に生徒にその知識を伝えておくことが必要である。特に、タンザニアにおけるオリンピックやパラリンピックの参加者の数がなぜ少ないのかについては、国の歴史的背景もあるため、地理等の社会科の授業とタイアップして事前にタンザニアという国について理解を深めておくことも必要である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>オリンピック・パラリンピックについては、3年前から取り組んで来ている。PTA親子人権講演会と兼ねあわせて実施してきているが、来年度は障害者バスケットボールの体験（実際に車いすに乗ってバスケットをすることによって、その大変さについて実体験する）を考えている。</p>